

株立ちのケヤキについて

1 経過

- ・ 樹木に関するこれまでの検討経緯や市民参加を踏まえてとりまとめた、「調布駅前広場の既存樹木の取扱い（平成 30 年 3 月 30 日更新）」において、株立ちのケヤキは、調布駅前広場内に 1 度移植する位置付けとしている。
- ・ 平成 29 年度末に移植の準備のため、根回し工事作業済みとなっているが、現在まで移植先の位置を決定していなかったことから、移植未実施となっている。
- ・ 令和 2 年 9 月に株立ちのケヤキの根元にベッコウタケの発生が見られたため、樹木医による外観診断および精密診断を実施した。

2 調査方法

東京都「平成 26 年度街路樹診断マニュアル」に基づき、樹木医による外観診断および精密診断（根株診断）を行った。

3 調査日

令和 2 年 10 月 6 日（火）

4 診断結果

- ・ 外観診断：B 2
 - ・ 精密診断：B 2
 - ・ 総合診断：B 2
- ※別紙 1 参照

5 市の対応方針案

- 応急措置として、以下の対応を早期に行う。
 - 分岐している幹をワイヤーロープなどでブレーシングし、枯枝を切除する。
- 現在の位置付けのとおり、今年度中に移植を実施する。
- 移植位置は、以下のとおりとする。
 - 調布駅中央口・広場口・パルコ前・グリーンホール前等、様々な場所からケヤキが見える位置を市案とする。（※追加資料 2，P. 7 を参照）
 - 25 t 程度のクレーン車のアームの回転半径内に配置し、吊り上げ・移動等の回数を 1 回とすることで、ケヤキへの負担を少なくする。
 - 移植の位置・方法等の詳細は、歩行者の安全確保を最優先に、専門家との意見交換及び市民参加での市民のご意見を踏まえ決定する。

別紙 1 株立ちのケヤキ樹木診断結果

「調布駅前広場株立ケヤキ樹木診断調査報告書」から一部抜粋，一部わかりやすい表現に改めた。

■診断結果

<p>外観診断 B2</p>	<p>樹形・樹勢は比較的健全に近い方であるが，要撤去の枯枝が見られる。根元には根株腐朽菌のキノコ(ベッコウダケ)が多数見られ，かつ芯に達した鋼棒貫入異常が見られる。</p>
<p>精密診断 (根株診断) B2</p>	<p>精密診断機器は，「貫入抵抗測定器」(レジストグラフ)を使用し，根株診断4断面を行ったところ，腐朽空洞率は最大38%の著しい異常が認められた。 断面別には，反時計回りで 2.4%，38%，1%，0%となった。</p> <p>【根株診断の診察結果】</p> <div data-bbox="411 784 1412 1288"> <p>【根株平面略図】</p> </div>
<p>総合判定 B2</p>	<p>樹体内に著しい傷害を抱えており，根元に芯に達した鋼棒貫入異常(幹番号3-4間)があり，キノコ(ベッコウダケ)の発生が多数見られることから，内部の傷害(腐朽等)の推移について今後重点的に観察が必要である。(要観察:1年)</p>

※参考

健全度	
A	健全か健全に近い
B1	注意すべき被害が見られる
B2	著しい被害が見られる
C	不健全

■処置

倒伏防止

- ・根株腐朽菌であるベッコウタケが調査範囲外で更に腐朽が進行していることも推察されることから、分岐している幹をワイヤーロープなどで相互に支えあうように設置し、折損による倒伏を防止することが望ましい。
- ・株立の根元が腐朽により裂けて幹が倒れるおそれがあるので現在設置している支柱より高い位置で相互に引っ張りあうようにブレーシングを行う。

枯枝

- ・落下の危険があるだけでなく腐朽菌の侵入門戸となることから早期に切除することが必要である。

ベッコウタケ

- ・根本にベッコウダケがあるため、短期(1年程度)の樹木診断を行い、状態を把握する必要がある。

■植栽地について

- ・現況の植栽地は、根鉢の上に立ち入れる状況のため、根鉢保護のために早急に立ち入りを制限する簡易ロープ柵などで囲うことを推奨。
- ・今後ベッコウタケが広がると枯枝も多くなるので、樹冠直下に人の立ち入りが無いよう植栽柵を広げることが望ましい。その場合、良質な植栽土壌が広がることにより根を十分にひろげ樹勢の回復を促進することの一助にもなる。

■移植について

本ケヤキは移植を検討されているが、ベッコウタケに罹患してしまったため、以下の状況を認識の上計画されたい。

- ・移植は健全な樹木にとっても非常にストレスがかかるが、ベッコウダケを内在させている樹木にはさらに樹勢を悪化させ抵抗力が落ち菌を蔓延させる要因となる。また、菌を蔓延させることにより倒伏する可能性が高くなる。
- ・新しい植栽地にベッコウタケ菌を持ち込むことになる。
- ・移植を行う場合は適期(落葉期12月～2月)に行い、移植後の養生(灌水、幹巻、根元の立ち入り制限など)を十分な期間行う。
- ・移植工事時には腐朽した根鉢は崩れ易いことを十分把握して工事計画を行い、新しい植栽地は倒伏に備えて支柱が掛けられるよう広くとること。その場合、良質な植栽土壌に植栽すること。